

JR東労組では、4月6日に「第12回臨時中央執行委員会」が開催されたようだが、同日以降、仙台・千葉・大宮など複数の地本が機関紙で、目を疑うような‘驚愕の内幕’を報じている。同執行委員会では、以下の5点を確認したようだ。「①中央執行委員長（吉川英一氏）の制裁申請と執行権停止および組合員権の一部停止の緊急措置」、「②中央執行委員長代理に、村田俊雄中央執行副委員長を指定」、「③中央執行副委員長・東京地本執行委員長（宮澤和広氏）の制裁申請と執行権停止および組合員権の一部停止の緊急措置」、「④中央闘争委員会の解散」、「⑤‘不当労働行為に抗する闘いの体制＝地本闘争委員会’の解除」。

臨時大会の直前、JR東労組の内部抗争が激化！？

役員2名に責任転嫁‘シッポ切り’ならぬ‘頭切り’

2委員長（中央・東京）を「制裁申請」、執行権停止・組合員権の一部停止

一部地本の機関紙によれば、JR東労組の運動を牽引する立場にある吉川氏と宮澤氏の両名は「中央本部の許可無く、組合事務所および組合施設への立ち入りを禁止」とされたようだ。JR東労組の臨時執行委員会は、4月12日に控えている臨時大会の直前に、スト戦術の七転八倒と組合員の大量脱退・内部崩壊の責任を2名の役員のみになすりつけ、さらには「制裁」を申請するという戦慄の展開が繰り返された。極めて異常な言動・組織運営を自ら白日のもとに晒し、自滅の道を走り出したことに対し、内外から驚愕の声があがっている。

JR総連役員も国会議員へ「スト戦術は労働協約違反だった」旨の説明に走る！？

一方で、これまで沈黙を貫いていたように見える上部機関・JR総連の役員は、呆れたことに今更ながら国会議員に対して、「JR総連通信 号外」なる資料を持参し（HPでも公開されていない）、『JR東労組のスト戦術が労働協約に違反する行為であった』旨や、「2名に対する制裁申請や緊急措置がなされた」ことを説明して回っている。あたかも、間違った運動を牽引し組織混乱を招いたのは2名の責任で、制裁等が当然であるとも言えるかのようだ。そもそも、この間、ありとあらゆる機会において、JR総連・JR東労組内では、スト戦術の是非について‘皆で議論’のうえ組織として是認し、JR総連「春闘」を牽引する運動として祭り上げてきたのではないのか。実際のところはアンダーグラウンドで、全体主義的な組織運営と運動内容の決定がされていたのか。いずれにせよ、組織全体で正式に機関決定した運動内容にも拘わらず、一部役員のみ責任をなすり付け、袋叩きにして‘切る’という、理念も責任感もない‘醜さ’は、JR革マルの常套手段とも言えるか。見るに堪えない…。

責任をとるのは2名だけ？役員体制や‘見かけの運動’を変えても‘闇’は深まるばかり…

制裁申請の理由の1つに、大宮地本や千葉地本の機関紙では、宮澤氏が「秘匿すべき情報を分会代表者会議で明らかにし、組合の目的および事業の遂行を妨げる行為を行った」ことが挙げられている。組合員の民意に基づき運営されるべき組合機関の代表役員に対して‘話されるとマズい’内容とは…。このような広報をすること自体が異常だということを自覚していないことが「組合員不在の労働運動」を象徴していると言えようが、なりふり構ってられないのだろう。臨時大会の代議員の中には、集団で欠席することで大会の成立要件を満たさず、流会させることを目指す策動も一部散見されるようだ。当日の大混乱は必至だ。